

2017 年度 センター試験 地学基礎（本試験） 分析

全体概況

試験時間 2 科目で 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：15 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 全体的に教科書に沿った標準レベルの問題である。昨年度に比べ大問数は増加したものの、解答数に変化はなかった。基本的な知識を求める問題が中心で取り組みやすく、地学基礎に費やす時間を 30 分と仮定すれば時間内で十分に対応できたため、難易度の変化なしとした。日ごろから教科書に記載している図や表を参照しながら学習することで高得点を狙える問題であった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	「地球の構造と歴史」 「火成岩」	17 点	標準的な問題である。A の問 2 はグラフの読み取りを必要とするものの、基本的な問題だったため取り組みやすかっただろう。B の問 4 の岩石のスケッチ問題も定石問題であり、迷いなく取り組めたであろう。
第 2 問	「地球温暖化」 「日本周辺の大気・海洋・自然環境現象」	16 点	かつての理科総合を彷彿させるグラフ読み取り問題が見られたが、過去問を中心に演習を行っていた受験生は抵抗なく解答できたであろう。B の問題も知識の有無を問う問題であり取り組みやすかったように思える。
第 3 問	「太陽と太陽系の惑星」	7 点	写真とその説明から答えを導き出す問題であり、日ごろから教科書の図や写真を参照しながら学習しているかを問われた問題。計算問題も取り組みやすかった。
第 4 問	「宇宙からの光と地球・生命の歴史」	10 点	登場人物の会話を通じて知識を問う問題。内容も極めて基礎的な内容であり取り組みやすかったであろう。